

## A-6

### 名詞性を持つ複雑述語・文末形式における自動詞構造の分析

新山聖也(筑波大学大学院) s.niiyama2180@gmail.com

#### 1. はじめに

「-っぱなしだ」という形式において、他動詞の内項が主語として出現する場合がある。

- (1) ランプが点けっぱなしだ。  
cf. 太郎がランプを点けっぱなしだ。

- ・本発表では、(1)のように、他動詞を含んでいながら内項しか表示されない構造を自動詞構造と呼ぶ。
- ・問題提起：自動詞構造は「-っぱなし」が語(=派生名詞)を構成することに由来するのか？  
それとも、語であることに特有ではない構造的な理由に依るものか？
- ・提案：「-っぱなし」の自動詞構造は語を構成することは無関係の構造的な理由に依るもの  
(「-ままだ」のような音韻語を構成しない形式においても同様の構造が成立する。)

- (2) ランプが点けたままだ。  
cf. 太郎がランプを点けたままだ。

#### 2. 議論の背景

##### 2.1 「-っぱなし」の形態論的位置づけ

影山(1993)に代表されるように、統語的に形成される語と語彙的に形成される語の違いは興味深い研究対象とされてきた。中でも解りやすい例として、統語的複合動詞と語彙的複合動詞の相違があげられる。

- (3) a. 太郎は名曲を作り続けた。(統語的複合動詞)  
b. 太郎は名曲を作成し続けた。(「VN する」の出現)  
c. 90年代の日本では、たくさんの名曲が作られ続けた。(受動形の出現)
- (4) a. 太郎は名曲を作り上げた。(語彙的複合動詞)  
b. \*太郎は名曲を作成し上げた。(「VN する」の非出現)  
c. \*90年代の日本では、たくさんの名曲が作られ上げた。(受動形の非出現)

- ・統語的複合動詞は自由に作り出せる点で、語彙的な語とは異なる
- ・(3)(4)にみられるように、統語的複合動詞のほうがより自由に操作を加えることができる

- (5) a. 花子のスマートフォンはしまいっぱなしだ。  
b. 花子のスマートフォンは充電しっぱなしだ。  
c. 花子のスマートフォンはしまわれっぱなしだ。

- ・(1)で挙げた「-っぱなし」も(意味が整合する必要があるものの)さまざまな操作が可能  
→ 「-っぱなし」についても統語的な派生名詞と考えることができる。  
→ ただし、「-っぱなし」においては項構造が変化する自動詞構造(1)が存在する。

統語的複合動詞の分析：[[名曲を作り]続ける]のように後項動詞は「作る」だけではなく「名曲を作る」という動詞句を包摂している → 「-っぱなし」の自動詞構造はどうなるのか？

## 2.2 「-っぱなし」と再分析

・「Vたい」：目的語がガ格をとる場合、ヲ格をとる場合が存在する。

「すなわち、目的語が動詞語幹だけの目的語と解釈されれば「ヲ」が現れ、派生全体一状態を表わす動詞形一の目的語と解釈されれば「ガ」が現れる訳である(久野 1973:52)」

この説明に基づくと、構造は以下の通りになる。

- (6) 太郎は水が<sub>[A]</sub>飲みたい  
cf. 太郎は<sub>[VP]</sub>水を飲み<sub>[A]</sub>たい

この場合、他動詞「飲む」が目的語を要求するのではなく、「飲みたい」が一つの形容詞として再分析されて、目的語を要求しているのだと考えることになる。

岸本(2005)：動詞と「-たい」の間にとりたて詞を挿入すると、目的語がガでマークされなくなる。

(7)からも、「飲みたい」が再分析されている場合に目的語がガで表示されるという説明は保証される。

- (7) \*太郎は水が飲みさえしたい。  
cf. 太郎は水を飲みさえしたい。

「-っぱなしだ」の自動詞構造についても同様に捉えられる可能性がある。

- (8) ランプが<sub>[N]</sub>点け<sub>[A]</sub>っぱなしだ  
cf. 太郎が<sub>[VP]</sub>ランプを点け<sub>[A]</sub>っぱなしだ

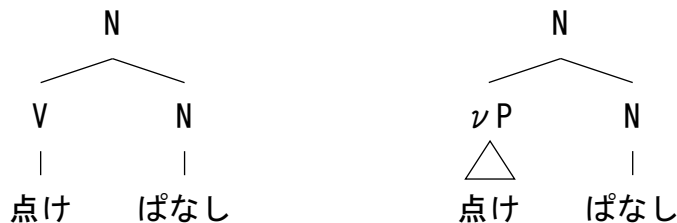
しかし、自動詞構造であっても、動詞が選択するような場所句が出現する(9)

→自動詞構造であっても、動詞句自体は存在すると考えたほうがいいのか。

- (9) a. 本が机の上に置き<sub>[A]</sub>っぱなしだ。  
b. ランプが(\*机の上に)点け<sub>[A]</sub>っぱなしだ。

本発表においては、「-っぱなし」が自動詞構造を形成する際、(10a)のように動詞句を包摂しない構造を持つか、(10b)のように動詞句を包摂する構造をしているかを議論していく。

- (10) a. b.



(10a)：語彙的な語(一般的な語)に近い、句を含まない構造

(10b)：統語的複合動詞と同様に、句を包摂する構造

議論を先取りすると、本発表では(10b)の構造を主張することになる。

### 3. 「-っぱなし」における自動詞構造

前提として、中村(2009)によると、「-っぱなし」の用法には大別して3つの用法がある。

- (11) a. 太郎は悲鳴を上げっぱなしだ。(動作・出来事の継続)
- b. 太郎はランプを点けっぱなしだ。(結果状態の継続)
- c. 太郎は本を読みっぱなしだ。(放置状態の継続)

中でも、「結果状態の継続」「放置状態の継続」用法において、自動詞構造が形成される。

→本発表では主に「結果状態の継続」と思われる用法を取り扱って議論を進める。

- (11') b. ランプが点けっぱなしだ。(結果状態の継続)
- c. 本が読みっぱなしだ。(放置状態の継続)

#### 3.1. 外項の实在

影山(1996:187)

脱使役化の接尾辞「-ar-」と「-てある」の違いとして、統語上の動作主の存在を論じている。

動作主指向副詞「わざと」や目的節「ために」が生起する→「-てある」にはゼロの動作主が存在する。

- (12) a. \*扉がわざと閉まっている
- b. 扉がわざと閉めてある。
- (13) a. \*予算案が通過しなかったときのために、資金が集まった。
- b. 予算案が通過しなかったときのために、資金が集めてあった。

「-っぱなし」においても「わざと」や「ために」は生起可能 → ゼロの動作主が存在している。

(14) わざとドアが開けっぱなしなんです。だから閉めないでください。

(15) 人がいるように見せかけるために、電気をつけっぱなしなんです。

(14,15)において「あける」「つける」の内項がガ格で出現してはいる自動詞構造だが、動作主指向副詞や目的節が出現する。

他動詞の外項が構造上は存在している。 → (10b)の構造を支持する。

#### 3.2. 内項の实在

- (16) a. ドアが[<sub>VP</sub> この鍵で2つ開いた]
- b. ?\*子供が[<sub>VP</sub> げらげらと3人笑った] (Miyagawa1989:662)

内項は、動詞句の内側の数量詞と関係を持つことができる。

「-っぱなし」の場合も、動詞句の内部に内項の数量詞が出現することができる。

- (17) a. 本が[<sub>VP</sub> 机に2冊置きっ]ぱなしだ。(他動詞を含む自動詞構造)
- b. シャツが[<sub>VP</sub> ベランダに2枚干しっ]ぱなしだ。(他動詞を含む自動詞構造)

数量詞の出現から、動詞句に基底生成される他動詞の内項が存在する。 → (10b)の構造を支持する。

### 3.3. 主語位置の問題

自動詞構造ではなく、目的語がヲ格で出現する場合に、他動詞の主語とは異なる主語を立てることができる。(18a)は、「兄の部屋が電気を点ける」ということではない)

- (18) a. 兄の部屋はいつも電気を点けばなしだ。  
b. \*兄の部屋は電気をつけた。

→ 「ばなしだ」という名詞述語文の主語は、他動詞文とは別個に存在することができる。

・では、自動詞構造の主語は他動詞の項か、「ばなしだ」の主語か。

「シカ」は否定辞と同一節の中で共起しなければならない。(Muraki1987,久野 1999)

- (19) a. 花子ハ<sub>節</sub> 太郎ガ 日本語<sub>シカ</sub> デキ<sub>ナイ</sub>ト言ッ<sub>タ</sub>。  
b. \*花子ハ<sub>節</sub> 太郎ガ 日本語<sub>シカ</sub> デキ<sub>ル</sub>ト言ワ<sub>ナ</sub>カッ<sub>タ</sub>。(久野 1999:302)
- (20) a. 机の上のランプ<sub>シカ</sub>点<sub>け</sub>ばなし<sub>ではな</sub>か<sub>っ</sub>た。(自動詞構造全体の主語+しか)  
b. \*太郎は机の上のランプ<sub>シカ</sub>点<sub>け</sub>ばなし<sub>ではな</sub>か<sub>っ</sub>た。(他動詞の目的語+しか)

(20a) → 自動詞構造の主語は「ばなしだ」と同一節にある。

(20b) → 他動詞の目的語は「ばなしだ」と異なる節にある。

この点で、自動詞構造の主語は「ばなしだ」の主語であると考えられる。

### 3.4. 導き出される構造

3.1 節,3.2 節 → 他動詞の外項・内項は存在する。(10b)のようにvPを含む構造となる。

3.3 節,→ 上の2つの項とは別に「っばなし」の主語が存在する。

・以上の観察から導かれる自動詞化のメカニズム

- (21) [TP ランプ<sub>i</sub>[NP [<sub>vP</sub> e<sub>arb</sub> [<sub>VP</sub> e<sub>i</sub> 点<sub>け</sub>]v]っばなし]だ]

見えない内項：ゼロの代名詞 e として出現し、これが「ばなしだ」の主語と照応している

見えない外項：動作主は誰でもいい存在なので、e<sub>arb</sub>として出現する。e<sub>arb</sub>は任意の存在をあらわす

任意の存在をあらわすゼロ要素 e<sub>arb</sub>は目的語ではなく主語にのみ出現し得る(王 2008)

- (22) a. [e<sub>arb</sub>/??人が タバコを吸うのは]よくない。  
b. [些細な事が 人を/\*e<sub>arb</sub> 悲しませることは]よくある。(王 2008:26)

こういった e<sub>arb</sub>は以下の例を見るに、補文においても任意の存在という解釈をとることが可能である。

- (23) a. [校長先生は[ e<sub>arb</sub> 校庭で煙草を吸うこと]を禁じた]  
b. \*[校長先生は[学生が校庭で e<sub>arb</sub> 食べること]を禁じた]

つまり、本発表の分析では、動詞句の内側に音形を持たない要素を仮定せざるを得ないが、(21)の構造は音形を持たない要素にみられる一般的な性質を反映したものとなっている。

- ・他動詞の項がそのまま出現する場合、他動詞の動作主のみが出現しない場合の構造

- (24) a. [TP 太郎<sub>i</sub>[NP[<sub>vP</sub> e<sub>i</sub> [VP ランプを点け]<sub>v</sub>]っぱなし]だ] (1cf.)  
 b. [TP 兄の部屋[NP[<sub>vP</sub> e<sub>arb</sub> [VP 電気を点け]<sub>v</sub>]っぱなし]だ] (18a)

#### 4. 発展

##### 4.1 文末形式「ままだ」における自動詞構造

文末形式「ままだ」においても「-っぱなし」と同様の分析が可能である。

- ・動作主指向副詞の生起→ゼロの外項の実在を示す。(3.1 節と対応)

- (25) ランプがわざと点けたままだ。  
 cf. \*ランプがわざと点いたままだ。

- ・動詞句内の数量詞の出現→内項の実在を示す。(3.2 節と対応)

- (26) 本が机の上に 3冊置いたままだ。

- ・「しか……ない」による同一節のテスト。(3.3 節と対応)

- (27) a. 机の上のランプしか[点けたままだ]ではなかった。  
 b. \*太郎は[机の上のランプしか点けた]ままだではなかった。

自動詞構造の主語は「ばなしではない」と同一節に出現する。

他動詞の目的語は「ばなしではない」と同一節に出現しない。

(25)~(27)のテストの結果、得られる構造(3.4 節と対応)

- (28) [TP ランプ<sub>i</sub>[NP[TP e<sub>arb</sub> e<sub>i</sub> 点けた]ままだ]

→「-っぱなし」の構造は音韻語をなす派生名詞に特有の構造ではない。

→「-ままだ」の場合「た」が出現している点で TP レベルの構造を含んでいると思われる。

この大きさの構造にも自動詞構造が存在する点で、(10a)の語彙的な語のような構造は考えづらい。

##### 4.2. 理論的含意

浅尾(2007)は、生産的な複合動詞(統語的複合動詞)・生産的な複合名詞がいずれも句の包摂を起こすことを指摘している。

- (29) [早く着き]すぎる

- (30) [四国の田舎]生まれ (浅尾 2008)

もし統語的な語の形成と句の包摂という性質が関係しているとすれば、「-っぱなし」の自動詞構造においても動詞句が包摂されているという本発表の分析は示唆的である。

→「-っぱなし」が統語的な派生名詞であること、自動詞構造であっても句の包摂現象を起こしていることが連動している。よって、浅尾(2007)の統語的な語に関する観察と本発表の結論は一致する。

## 5. おわりに

本発表では、「-っぱなしだ」「-ままだ」という二つの形式について、自動詞構造を形成する場合にも、動詞句を持つことを主張した。この主張は、単一の形式に終始する議論ではなく、統語的な語形成において句の包摂現象が起きるとい一般化に関して、派生名詞という従来扱われてこなかったタイプの語形成から寄与するものでもある。また、自動詞構造が「ままだ」においても共通している点で、自動詞構造が音韻語を形成する構造に特有のものではないことを確認した。

ただし、分析上の問題点として、提案した構造の詳細には更なる検討の余地がある。3.1節と3.2節の議論から、自動詞構造においても他動詞の外項・内項が構造上存在していることは明らかだが、そのメカニズムについては具体性を欠いており、自動詞構造の成立要因である「結果状態の継続」「放置状態の継続」という用法との関係も含めて議論していく必要がある。

また、本発表の議論はあくまでも「-っぱなし」にとどまっている。他の派生名詞「-たて」「-かけ」「-すぎ」や文末形式「-ばかりだ」「-途中だ」などにおいても「この卵は茹でたてだ」「この卵は茹でたばかりだ」のように自動詞構造自体は成立するものの、「-っぱなし」で用いたテストを利用できないことも多く、個々の形式に即した検証が必要である。

## 参考文献

- 浅尾仁彦(2007)「複合語の生産性と文法的性質」『日本言語学会第134回大会予稿集』pp.416-421.
- 浅尾仁彦(2008)「構文形態論による日本語動詞複合語の記述」形態論・レキシコンフォーラム2008年7月5-6日(神戸大学)
- 王丹丹(2008)「任意の解釈をもつゼロ要素と代名詞の交替」『日本語文法』8(1), pp.20-35.
- 影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房.
- 影山太郎(1996)『動詞意味論』くろしお出版.
- 岸本秀樹(2005)『統語構造と文法関係』くろしお出版.
- 久野暲(1973)『日本文法研究』大修館書店.
- 久野暲(1999)「「ダケ・シカ」構文の意味と構造」アラム佐々木幸子(編),『言語学と日本語教育 実用的言語理論の構築を目指して』pp.291-319,くろしお出版.
- 中村愛(2009)「「~っぱなし」の意味・用法に関する研究」『実践國文學』75, pp.99-114
- Miyagawa, Shigeru(1989)“Light Verbs and the Ergative Hypothesis“ *Linguistic Inquiry*, 20, (4),pp. 659-668
- Muraki Masatake(1978) The sika nai construction and predicate restructuring. *Problems in Japanese Syntax and Semantics* ed by J Hinds and I Howard, pp.155-177. Kaitakusha